

## 最近の活断層トレンチ調査

＜吉岡 敏和・宮下由香里・宍倉 正展・杉山 雄一＞



地質調査所では、活断層の過去の活動履歴を解明するために、全国の活断層のトレンチ調査を実施している。ここでは2000年の夏から秋にかけて実施した花折断層、温見断層、関谷断層のトレンチ調査について、その壁面を写真で紹介する。

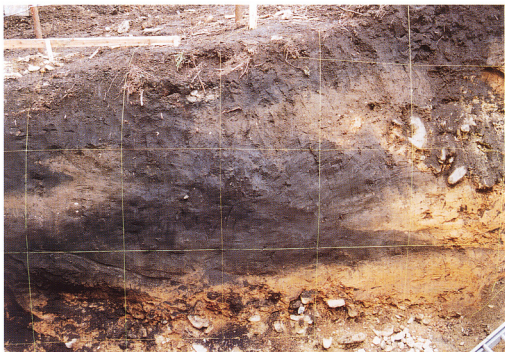
1. 京都市東部から滋賀県西部にかけて延びる花折断層では、京都市左京区修学院においてトレンチ調査を実施した。写真はその北側壁面で、N-7とN-8の間に見られる断層を挟んで、見かけ上東側(右側)の地層が高くなっている。グリッドは1m。



2. 温見断層は福井県と岐阜県にまたがって延びる左横ずれ活断層で、1891年の濃尾地震の際に活動したことが知られている。福井県大野市温見で掘削したトレンチでは、濃尾地震時に形成されたと推定される段差の下に、より大きく変形した数枚の腐植層が認められ、この断層が過去数回にわたって繰り返し活動していることがわかる。



3. 栃木県北部をほぼ南北に延びる関谷断層では、黒磯市百村の3カ所でトレンチを掘削した。写真はそのうちの中央に位置するトレンチである。手前と奥に2つの逆断層が観察され、それぞれ黒土層の上に風化シルト層及び礫層がのし上げている。また手前の断層は古墳時代に降下した榛名二ツ岳軽石層をも変位させている。



4. 関谷断層トレンチの南寄りトレンチの南側壁面。断層面は写真の左上から右下へ、約 $20^{\circ}$ 以下の傾斜で延びている。黒土層に挟まれるベージュ色の層(断層でS字形に変形している)の直上に榛名二ツ岳軽石層が見られる。グリッドは1m。